

■ 1 2011(平成23)年度に実施した主な事業

1 第5次長期計画について

第5次長期計画（以下「5長」という。）は、2010年度から10年間にわたって全学的に展開する長期計画である。5長では「グランドデザイン」において『2020年の龍谷大学（将来像）』を掲げるとともに、「教育」、「研究」、「社会貢献」、「大学運営」、「財政・施設整備計画」の5つの観点から課題と改革の方向性を示し、構成員が一丸となり事業成果の創出をめざしている。2011年度は5長改革を象徴する事業である「国際文化学部の新学部移転」及び「瀬田キャンパスへの新学部設置」を決定した。また、各部局が取り組む事業においても順調に進捗しており着実に改革成果が出ている。

● 5長推進の定着化に向けた取り組み

5長では、全学で50を超えるプロジェクトに取り組んでいる。各事業は大学執行部や関係部局がそれぞれ所管し、計画の骨子を示した「実施計画案」や、より詳細な計画を示した「実施案」を取りまとめ、成案を得たものから順次事業展開がなされるものである。大学全体としてこれらの事業を計画通り推進し、改革成果を創出していくためには、大学執行部と事業を所管する部局との綿密なコミュニケーションが不可欠である。このような認識に基づき、2011年度も各部局に対して定期的に進捗状況の確認を行い、事業の進捗状況についての報告を求めるとともに、必要に応じてヒアリングを実施した。さらに、それらに対する大学執行部の意見をフィードバックすることで、各部局と認識の共有化を図りつつ事業推進の適正化を図った。

また、大学執行部が所管する事業として、2011年度に「国際文化学部の深草キャンパス移転」及び「瀬田キャンパスへの新学部の設置」に係る実施案を取りまとめた。これらの事業は、5長改革を象徴するものであり、本事業を着実に推進することによって今後の5長の全学的な推進・定着をリードするものにしていくこととしたい。

● キャンパスコンセプトに基づいた拠点機能の充実

5長では本学が持つ教学資源を有効に活用し、それぞれが有機的に連携した大学総体としての改革をめざしている。このため、各キャンパスが備える特性を踏まえた拠点機能の充実を図ることは、5長改革を成功に導く重要な方

策である。これらの検討にあたっては、本学が有する教学資源や、各キャンパスの立地環境、あるいは地域との関係等を慎重に分析する必要がある。2011年度は、キャンパスコンセプトの策定に向け、学内資源の見極めや、各キャンパスや教学主体の特徴、他大学の動向やその特性等、本学を取り巻く学内外の環境に関する情報収集及び分析作業に注力した。

2012年度はこれらの分析結果に基づき、本学の将来的な発展に資するべく、既存3キャンパスの「位置づけ」、「役割」、「機能」等を明確にし、「キャンパスコンセプト」に基づいた拠点機能の充実・強化に努めていくこととしたい。

● キャンパスコンセプトに基づいた学部配置の適正化

2011年度は、新たな教学充実のための方策として、2015年4月に国際文化学部を深草キャンパスへ移転すること、及び瀬田キャンパスへ農学部（仮称）を設置することを決定した。

国際文化学部の深草キャンパス移転は、5長グランドデザインで掲げた「多文化共生キャンパス」の実現をめざすものである。国際文化学部には多数の留学生や外国人教員が在籍し、カリキュラムや研究面など様々な分野で、大学の国際化・グローバル化に資する豊富な教学資源を有している。本事業は、それらの資源を最大限活用し、大学の本部機能がある深草キャンパスから全学へ波及させることができるものであり、国際化促進と多文化共生の推進をより一層図る取り組みである。

また、瀬田キャンパスへの農学部設置は、瀬田キャンパスがこれまでの取り組みを通じて形成してきた本学と地域との共生関係や産官学連携の実績等を踏まえ、これをより深化させ、地域に根ざした拠点作りに取り組むことをめざしたものである。

こうした各キャンパスでの取り組みを通じて、拠点機能の充実・強化に努めていきたい。

● 教養教育の再編に向けた取組

「3つの方針（ポリシー）」に基づく教育を展開していくにあたり、全学的に影響を与える教養教育の役割と責任は極めて重要である。このような認識のもと、5長のアクションプランにおいて「学士課程教育の充実と学位の質保証」

を実現するための方策として「教養教育のあり方の検討」について議論を重ねている。

2011年度は、この「教養教育のあり方の検討」の実施案を検討するにあたって、2010年度に確認された方向性を踏まえ、学士課程を構成する教養教育の重要性を再確認し、教養教育全体を大所から俯瞰できるよう教養教育を位置づけ直すこと、また、その組織運営体制を強化することを改革の両軸として検討をおこなった。

●「龍谷スタンダード」の形成

「龍谷スタンダード」は、本学の教育理念の原点である「建学の精神」を基盤に、各学部が定めた「3つの方針(ポリシー)」に基づく責任ある教育を展開することをめざすとともに、学生の多様な学習体験を効果的に機能させて、学生の豊かな人間性と共生(ともいき)の精神の涵養に導く本学独自の総合的な人間養成を図る枠組みである。

2011年度は、「龍谷スタンダード」を具体的に展開するにあたり、正課外活動に焦点をあて、検討機関として「学習体験促進制度検討委員会」を設置し、本委員会において、学生の学習体験を促進させる新たな制度の構築とともに、事業の具体化を進めるための方策について取りまとめた。具体的には、「学習体験」の促進を図る方策として、学生の主体性や自律性を評価する「RGP(RYUKOKU Graduate Passport)プログラム」の導入に関する検討を重ねた。

2 政策学部・政策学研究科の開設

従来の政治学の枠を超えた学際性を有する学部・大学院の設置が求められている状況を踏まえ、法学部政治学科における教育・研究の成果を発展させ、2011年4月に政策学部および大学院政策学部研究科を開設した。開設初年度である2011年度は、教員23名、政策学部学生291名、大学院政策学研究科修士課程27名、博士後期課程4名でスタートし、文部科学省に提出した設置届出書に基づき、教育・研究活動を展開した。

●充実したカリキュラム

政策学部では、FD研究会を通して教員の組織体(チーム)として教育力の向上に努めると共に、学修パートナーシップの構築にも力を注ぎ、カリキュラムを効果的に運営することに努めた。また、政策学研究科では、多数いる社会人院生にも配慮しながらカリキュラムを構築し、研究指導体制の充実に努めた。また、「地域公共政策士」資格に対応したプログラムも開始した。

●「地域協働総合センター」の設置

2011年4月から政策学部及び政策学研究科のもとに「地域協働総合センター」を設置した。「地域協働総合センター」は、大学が地域社会と協働する連携拠点としての機能に加えて、地域で活躍する人材を育成するプロジェクトの開発・展開拠点の機能も有しており、研究成果をもとに地域連携と人材育成を一体化して展開することで、新しい形の政策学教育の開発を進めている。2011年度は、このような先進的な研究成果に基づいた教育展開を図り各種の事業を開始した。

3 短期大学部の改組

2011年4月、社会福祉科児童福祉コースを発展的に改組し、保育、幼児教育にかかる教育研究を展開する「こども教育学科」を開設した。また「社会福祉科」を「社会福祉学科」に名称変更し、「社会福祉士国家試験受験基礎資格」を取得できる既存の「社会福祉コース」に加えて、多様な学問分野を自ら選択しキャリア形成を可能とする「教養福祉コース」を新設し、新たな教学展開を開始した。

●「こども教育学科」の新設

保育・幼児教育にかかる教育・研究環境の充実に向け、新たな施設・設備を整備し、「こども教育学科」を開設した。「こども教育学科」では、卒業と同時に保育士資格・幼稚園教諭二種免許状の取得を可能とするカリキュラム体系を構築し、保育、幼児教育のエキスパートを養成するための教育を展開している。

●「社会福祉学科」の教学展開

2011年4月から「社会福祉科」の学科名称を「社会福祉学科」に変更した。またコースについては、既設の「社会福祉コース」に加えて、「健康福祉コース」を発展的に改組して「教養福祉コース」を新設した。「教養福祉コース」では、4年制大学併設の短期大学という教学環境を活かし、福祉領域の学修を基本としながらも、興味・関心に応じて福祉以外の領域に関する科目も体系的かつ系統的に学修できるカリキュラム体系を構築した。具体的には、福祉現場と大学との協働を重視した「コーオブ実習」の導入や、「英検」、「TOEIC」、「TOEFL」、「日本語検定」等の受験を奨励するなど、4年制学部への編入学をはじめとした学生の多様な進路希望の実現に対する支援体制の整備を図った。

4 「龍谷ミュージアム」の開館

本学創立370周年記念事業の一環として進められた「龍谷ミュージアム」は、仏教文化を中心とした文化財や学術資料等を「収集・整理・保存」、「調査・研究」、「展示・公開」し、本学における教育・研究機関としての活用、また広く社会に貢献することを目的として2011年4月5日に開館した。

●教育・研究活動

龍谷ミュージアムにおける研究を推進するなかで、研究成果や展示資料を教材として、龍谷ミュージアムを活用した授業を実施し、本学における教育活動として積極的に活用した。また、研究成果を展示や図録、講演・講座等で広



撮影：東出 清彦

く社会に対して発信するとともに、龍谷ミュージアム教員においては、学会での研究発表や学術論文の刊行等を積極的におこなった。

●開館記念特別展の開催

龍谷ミュージアム開館記念及び親鸞聖人750回大遠忌法要記念として、「特別展『釈尊と親鸞』」を1年間にわたって開催した。開催期間を通じて、約12万人を超える来館者を集め、広く社会に対して龍谷ミュージアムの認知度を高めた。

●龍谷ミュージアムの特色ある設備

2階展示室にはベゼクリク石窟大回廊を原寸大で復元展示した。3階には、世界最高クラスの映像を上映する「ミュージアムシアター」を設置し、2本の作品を上映した。また、翻訳機能を持つ多機能音声ガイド<①展示資料解説、②ベゼクリク石窟解説、③シアター3カ国語（英中韓）対応>端末を本学独自に開発・導入した。

5 教育・研究環境の充実について

●深草学舎新棟の建設

深草学舎新棟は、地上4階地下2階、延床面積約15,000㎡の施設として、2011年5月より建築工事に着手した。施設の内容としては、地下2階に学生食堂、地下1階から地上3階に講義室、地上4階に政策学部教員研究室及び大学院政策学研究科共同研究室を配置している。教育環境及び学生のキャンパスアメニティの充実に資する施設として、2012年度後期から使用を開始する。

また、同施設は、太陽光パネルの設置、省エネルギー照明の導入等、エコキャンパスの推進に資する環境にも配慮した仕様とした。

●深草学舎近隣不動産の取得について

第5次長期計画のグランドデザインである「龍谷Vision2020」では、「深草学舎における将来の教学展開に資する隣接地の取得」を重要な課題としている。

この課題に対応すべく、2011年6月には深草平田町の土

地（2,606.94㎡）を取得し、また、12月には紫光館隣接不動産<土地（3,639.57㎡）、建物（1,781.13㎡）>を取得した。加えて、留学生寮整備に向けた近隣不動産については、土地（1,249.79㎡）に建物（延床面積3,163.63㎡）を建築して取得することを決定した。

今後、深草キャンパス施設検討委員会等での検討を踏まえ、これらの近隣不動産を有効に活用する。

●大宮学舎「白亜館」を活用した研究の推進

全学研究高度化推進事業として位置付けられているアジア仏教文化研究センターの「アジア諸地域における仏教の多様性とその現代的可能性の総合的研究プロジェクト」は、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択されている。アジア仏教文化研究センターによる研究の推進は、第5次長期計画においても重要な研究政策のひとつとして位置付けおり、2011年度は「白亜館」を拠点として、センター長と24名の研究メンバーからなる研究プロジェクトで推進しており、21世紀における仏教研究の新たな地平を拓くことをめざして各種の研究事業を実施した。

●情報教育環境の充実

教育研究のための新たなメールシステム及びコミュニケーションツールとして、Google社が提供するGmailを導入し、2011年10月より学生及び教育職員へのサービス提供を開始した。この導入により利用者のメール利用環境が飛躍的に向上した。また、学生証のICカード化を実施するとともに、そのICカード化された学生証に対応した証明書自動発行機へのリプレイスを実施した。証明書自動発行機については、学生の利用頻度に応じて増設する等、利用環境を整備した。次期基幹事務システムの開発は順調に進捗しており、2011年10月から法人系システムの一部を稼働した。2012年度からは学事系（教学系）システムを稼働する予定である。

このような情報教育環境については、引き続き、教職員及び学生のニーズを踏まえながら充実を図っていくこととしたい。

